

# 障がいのある方々の インターネット等の利用に 関する調査研究

## [結果概要]

平成24年6月  
総務省 情報通信政策研究所  
調査研究部

## 1. 調査目的と構成

- インターネットなどの情報通信技術の高度化や普及に伴い、日常生活における、インターネットの利便性は大きく向上している一方で、身体的条件等から情報通信技術の利用に課題を抱える障がい者にとっては、それらを容易に使用できないことによる不利益としてのデジタルデバインドが拡大しているといえる。平成22年5月に策定された、「新たな情報通信技術戦略(IT戦略本部)」においては、「障がい者が情報通信技術を容易に活用できるよう、ハード・ソフトの抜本的改善を図る。」と記されているように、障がい者が情報通信を利用する環境の整備は、引き続き、重要な政策課題となっている。近年のソーシャルメディアやIP電話等のアプリケーションやタッチスクリーン方式によるスマートフォン端末が一般市民へ普及しつつあることによる情報通信利用環境の変化が、新たな観点からの利用格差を生み出すのではなく、新たに利用者に対してプラスの効用を生み出すこととなるよう、利用環境整備が求められているといえる。
- 本調査研究は、近年の情報通信技術の進展を踏まえて、障がい者のインターネット利用の利用の動向や意向についてアンケート調査を行い、多様な観点から分析することを通じて、情報バリアフリー環境の整備に関する施策の企画立案を行うための基礎資料を提供することを目的とした。

■調査方法

<文献調査>

- 昨今(過去2~3年)に生じた、障がい者のインターネット等サービス利用をとりまく動向について、アンケート調査に反映させる観点から、障がい者が利用する情報通信機器やサービス・コンテンツの展開状況、事業者・行政・団体の利用支援に関する取組、情報通信機器やサービスを利用した社会参加の現状の観点から現状調査を実施した。

<アンケート調査>

- 東京都に居住する、16歳以上の心身障がい者に対して、郵送アンケート調査方式により、インターネットに関する利用の動向や意向に関する調査を行った。調査の内容及び手法の検討にあたっては、「障がいのある方々のインターネット等の利用に関する調査報告書(総務省情報通信政策研究所 H15.6、以下「前回調査」という)」の障がい者アンケート調査を適宜参照した。

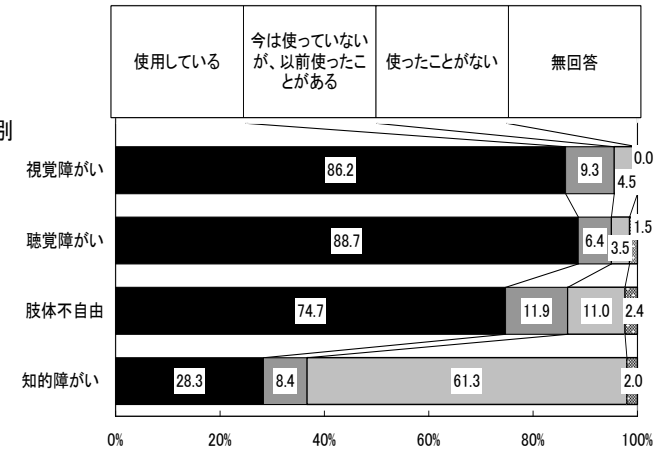
| 項目    | 内容   |
|-------|--|
| 調査地域  | ・東京都内  |
| 調査対象  | ・16歳以上69歳以下の障がい者   |
| 調査依頼先 | ・東京都盲人福祉協会、東京都聴覚障害者連盟、東京都肢体不自由児者父母の会連合会、東京都知的障害者育成会、東京都特別支援学校PTA連合会。<br>・東京都内の特別支援学校高等部(16校) |
| 抽出方法  | ・調査依頼先による無作為抽出   |
| 調査方法  | ・郵送にて協力先に調査票を配布<br>・回答者または協力先から郵送にて回収  |
| 調査実施日 | ・平成24年1月12日~平成24年3月9日  |
| 配布数   | ・2,262件  |
| 有効回答数 | ・812件(回収率:35.9%)   |

## パソコン利用の現状・ニーズ 1. パソコン利用率

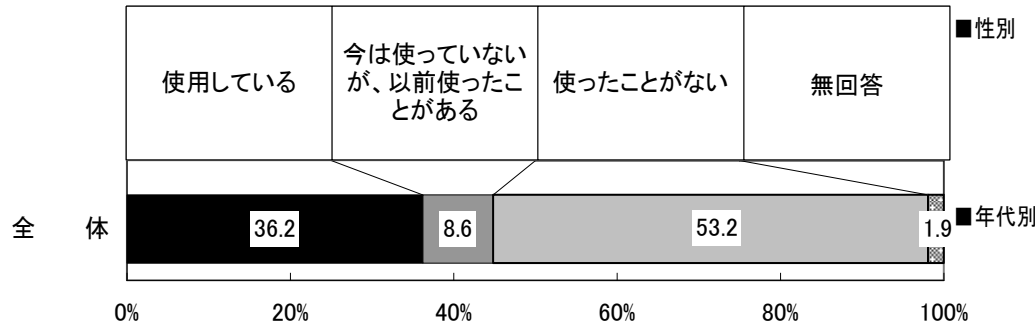
「使用している」が36.2%

- 本調査では障がい者全体のパソコン利用状況は「使用している」が36.2%となった。
- 障がい種別にみると、視覚障がい86.2%、聴覚障がい88.7%、肢体不自由74.7%、知的障がい28.3%となった。
- 男女別にみると、女性34.5%、男性37.4%となり、男性の利用者が3ポイント程度高くなった。
- 年代別にみると、「使用している」との回答は、年代が上がるにつれて低下する傾向にある。最も高いのは10代の78.7%、逆に最も低いのは60代の10.9%となった。
- 前回調査との比較では、「使用している」が10.8ポイント高くなった。

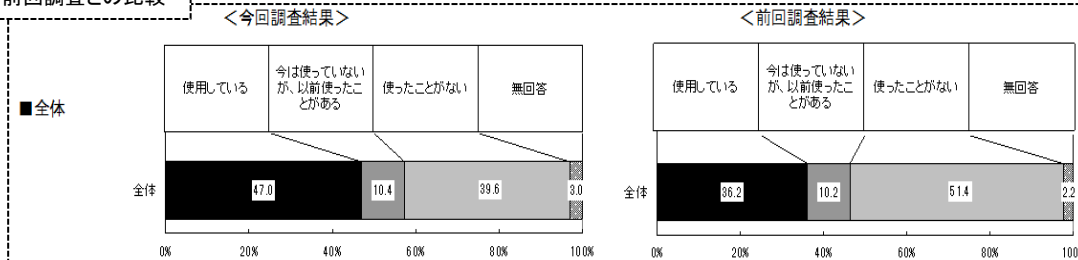
■障がい種別



■全体



(参考) 前回調査との比較



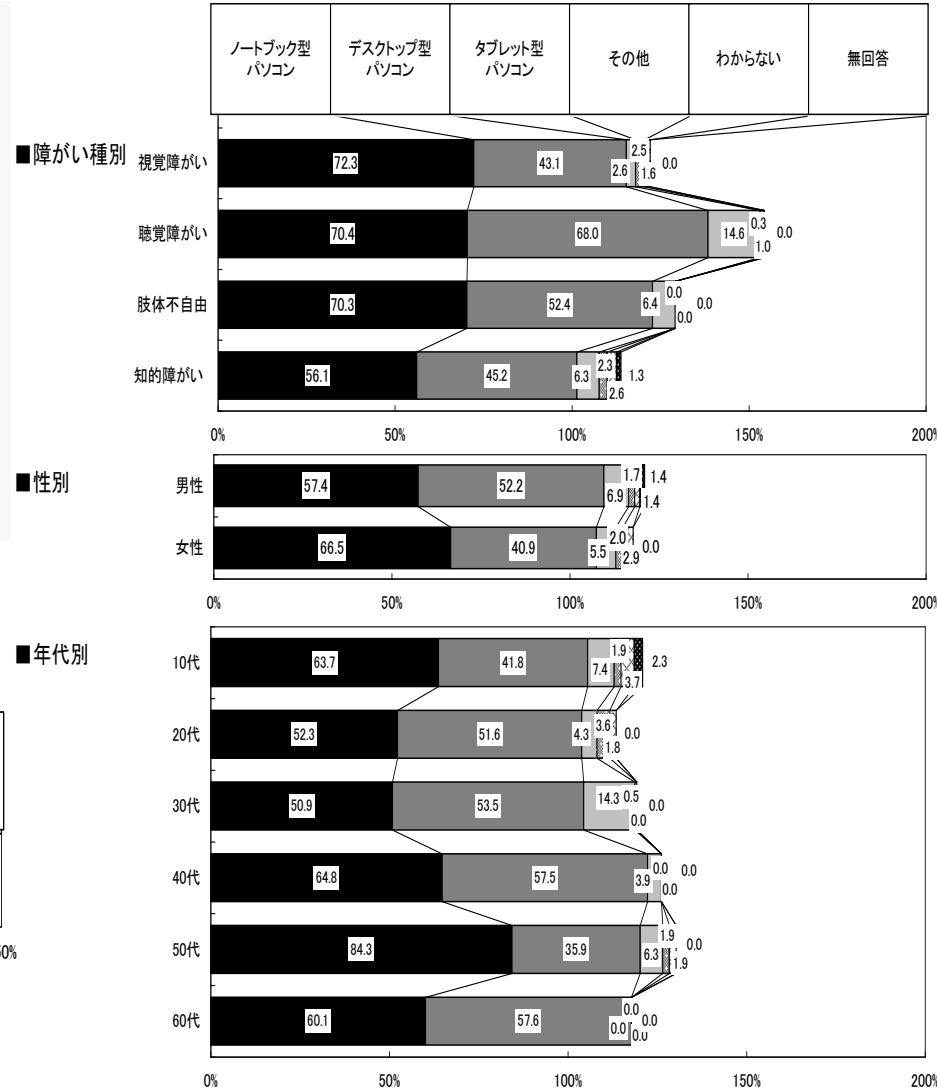
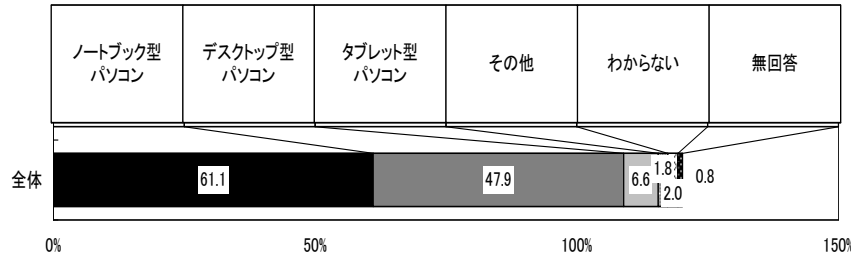
注: 比較のために、ウェイトや対象(10代-40代)を揃えて再集計を実施 (以下の「前回調査との比較」についても同様)

## 2. パソコン利用種類

「ノートブック型パソコン」が61.1%、「タブレット型パソコン」は6.6%

- 本調査では使用しているパソコンは「ノートブック型パソコン」が最も多く61.1%となった。なお、最近市場で話題となっているタブレット型パソコンは6.6%にとどまった。
- 障がい種別にみても「ノートブック型パソコン」が多い。視覚障がい72.3%、聴覚障がい70.4%、肢体不自由70.3%、知的障がい56.1%となった。
- 男女とも「ノートブック型パソコン」が最も高くなった。女性66.5%、男性57.4%となり、女性が9ポイント程度高くなった。
- 30代を除き「ノートブック型パソコン」への回答が最も高くなった。30代では「デスクトップ型パソコン」が53.5%と高くなった。なお、30代では「タブレット型パソコン」が14.3%と他の年代よりも高くなった。

■ 全体

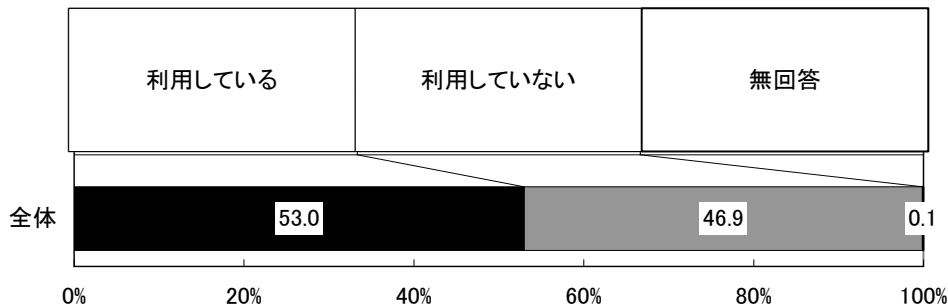


■ インターネット利用の現状・ニーズ  
1. インターネット利用率

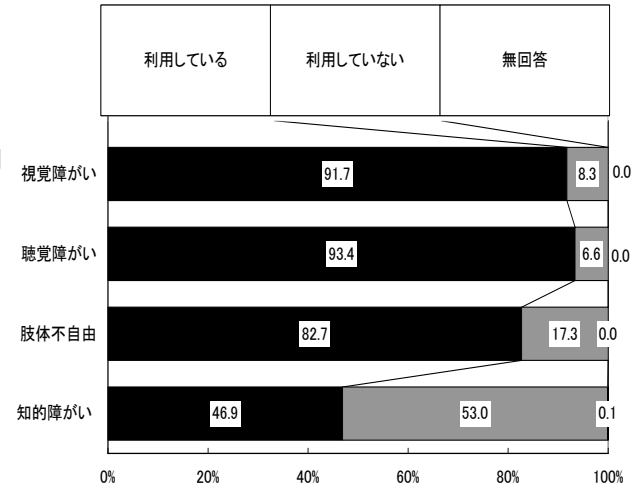
「利用している」53.0%

- 本調査でインターネット利用状況をきくと、「利用している」53.0%が高く、「利用していない」46.9%となった。
- 障がい種別にみると、視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由では「利用している」がそれぞれ91.7%、93.4%、82.7%となった。知的障がいでは、「利用していない」との回答が53.0%となった。
- 男女とも「利用している」が高くなった。男性53.4%、女性51.7%となり、男女での差分はほとんどなかった。
- 10代、20代での「利用している」との回答が78.8%、77.6%と高くなった。
- 前回調査との比較では、「利用している」が、31.7ポイント高くなった。

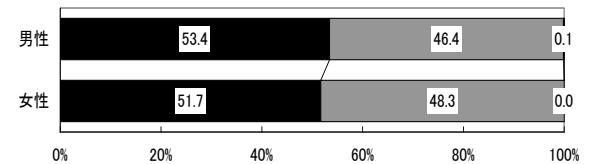
■ 全体



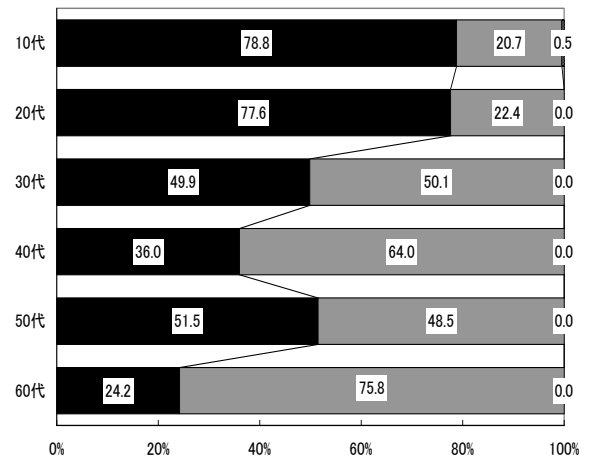
■ 障がい種別



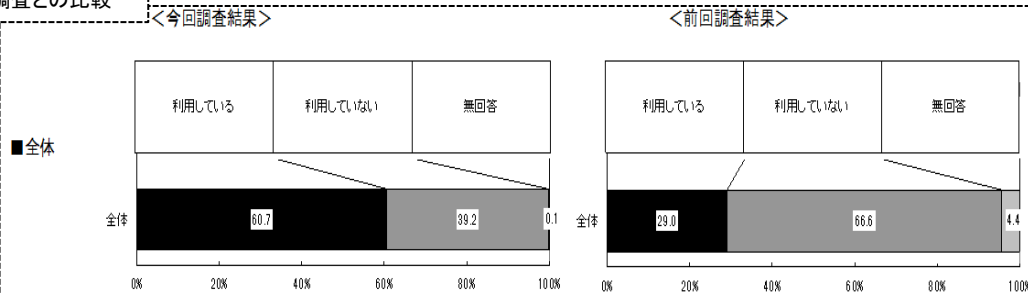
■ 性別



■ 年代別



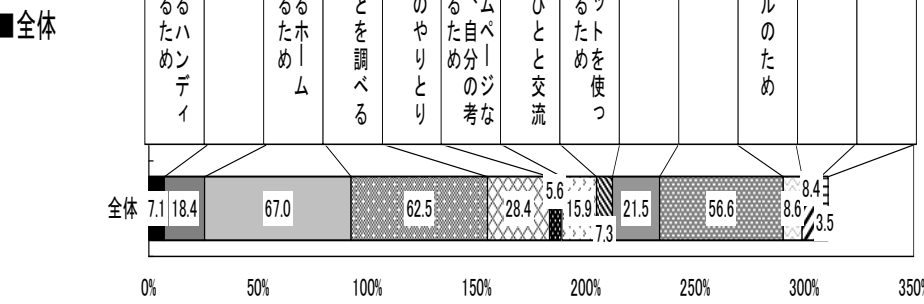
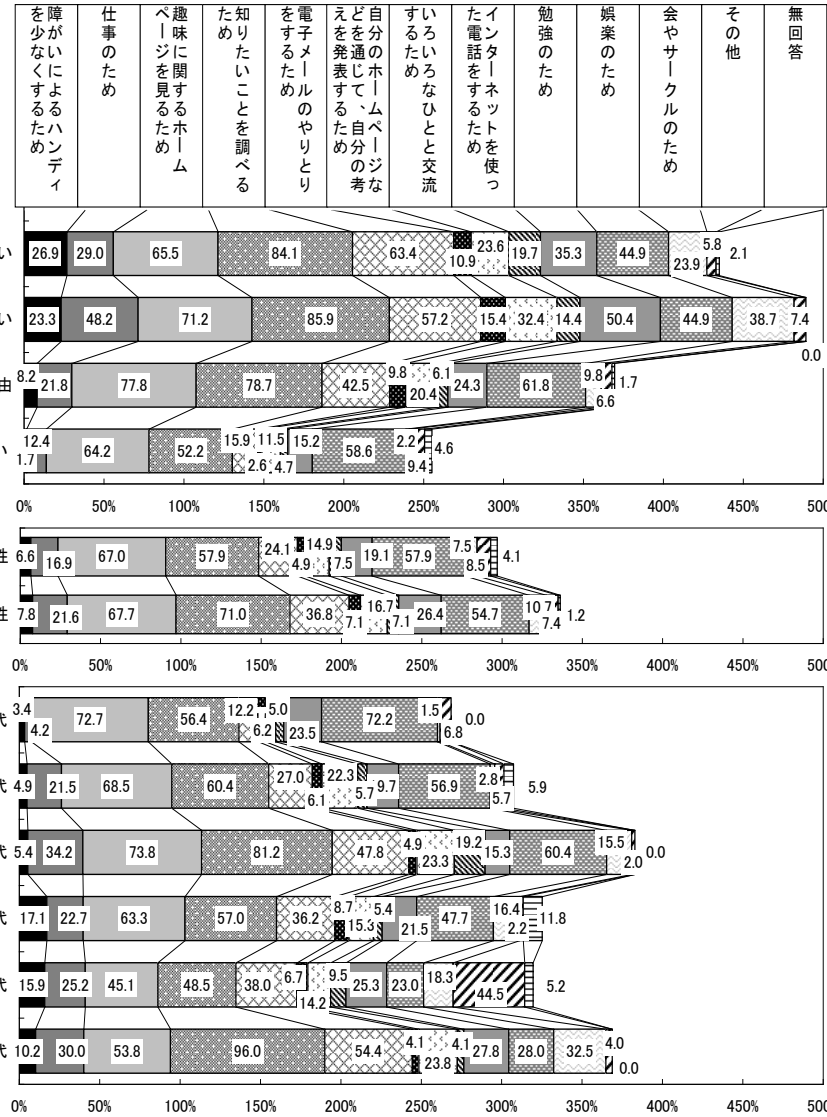
(参考) 前回調査との比較



## 2. インターネット利用目的

「趣味に関するホームページを見るため」、「知りたいことを調べるため」、「娯楽のため」は半数以上が回答

- 本調査の全体では「趣味に関するホームページを見るため」67.0%、「知りたいことを調べるため」62.5%、「娯楽のため」56.6%の順で高い。
- 障がい種別に目的をみると、視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由では「知りたいことを調べるため」が最も高くなった。一方で知的障がいでは、「趣味に関するホームページを見るため」が高くなった。
- 女性では「知りたいことを調べるため」71.0%、男性では「趣味に関するホームページを見るため」67.0%となった。
- 年代別にみると10代、20代、40代では「趣味に関するホームページを見るため」が高い。30代、50代、60代では「知りたいことを調べるため」が高くなった。

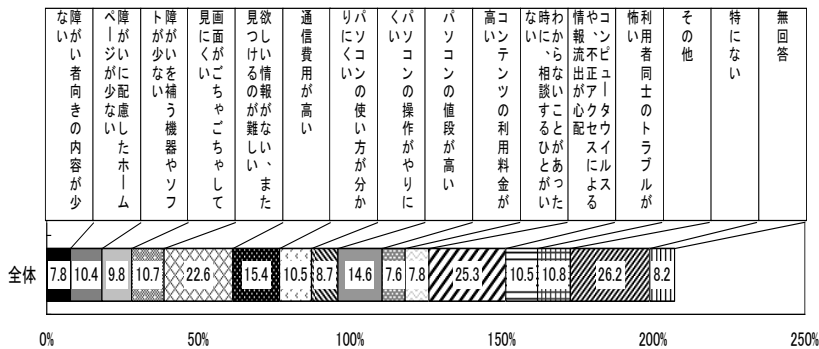


### 3. インターネット利用に際して困ること

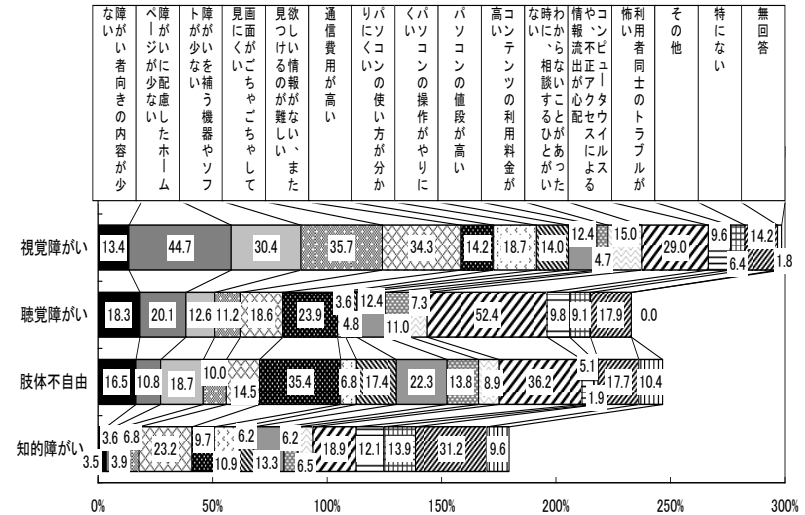
「コンピュータウイルスや、不正アクセスによる情報流出が心配」が高い。一方で「特にない」者もいる。

- 本調査の全体では「コンピュータウイルスや、不正アクセスによる情報流出が心配」が25.3%と高い。一方で「特にない」者も26.2%と多い。
- 障がい種別にみると、視覚障がいでは「障がいに配慮したホームページが少ない」44.7%、聴覚障がい、肢体不自由では「コンピュータウイルスや、不正アクセスによる情報流出が心配」がそれぞれ、52.4%、36.2%となった。
- 男女別に見ると、男性では「特にない」が27.8%と高い。女性では「コンピュータウイルスや、不正アクセスによる情報流出が心配」が30.0%となった。
- 年代別にみると、10代-30代で「特にない」が高い。また、10代-40代で「欲しい情報がない」が、30代-60代で「コンピュータウイルスや、不正アクセスによる情報流出が心配」が比較的高い。

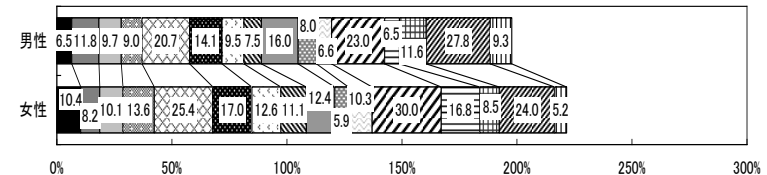
■全体



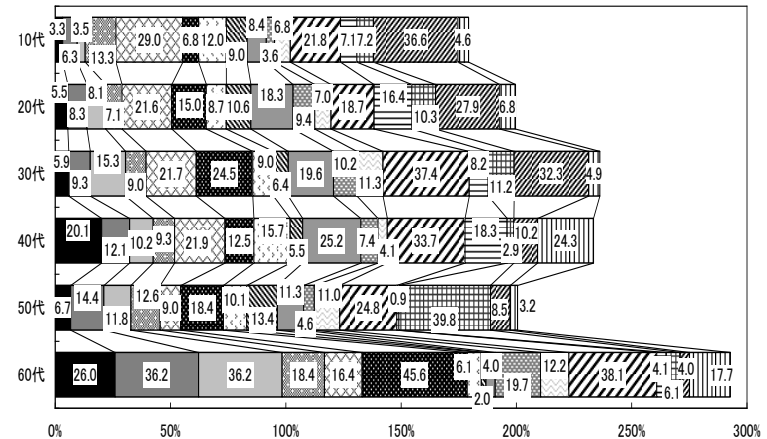
■障がい種別



■性別



■年代別





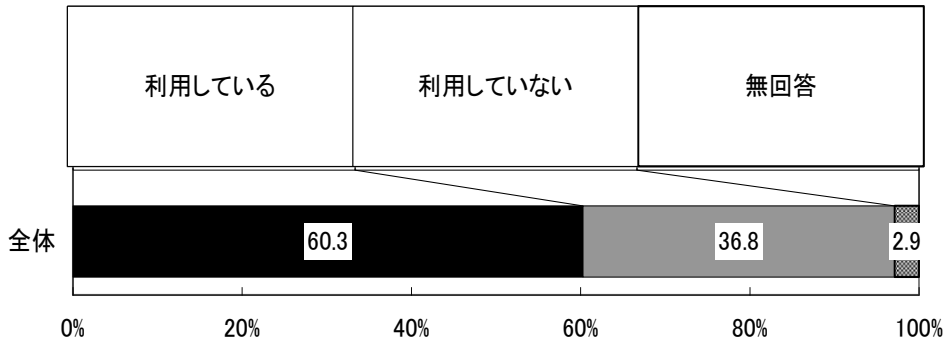
■ 携帯電話・PHS利用の現状・ニーズ

1. 携帯電話・PHSの利用率

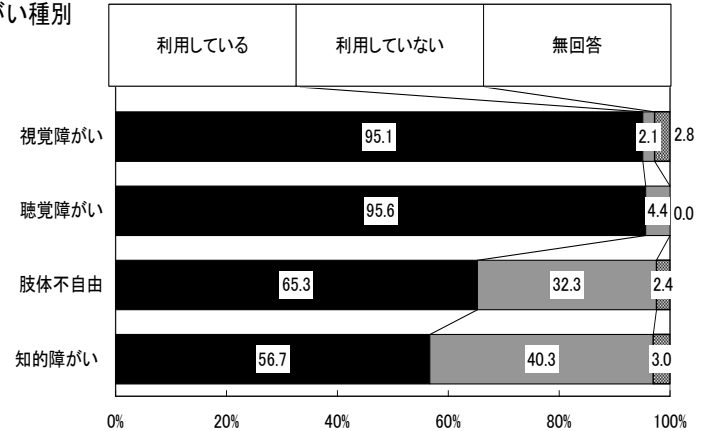
「利用している」60.3%

- 本調査の全体では、「利用している」60.3%、「利用していない」36.8%となった。
- 障がい種別に見ると、すべての種別において「利用している」が高くなった。視覚障がい95.1%、聴覚障がい95.6%、肢体不自由65.3%、知的障がい56.7%となった。
- 男女とも「利用している」が高くなった。女性59.8%、男性60.3%となり、男女での差分はほとんどなかった。
- 年代別では、10代～50代では「利用している」との回答が高くなったのに対し、60代では「利用していない」との回答が高くなった。
- 前回調査との比較では、「利用している」が34.1ポイント増となった。

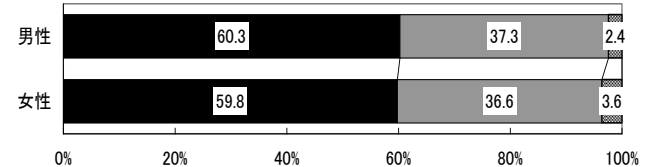
■ 全体



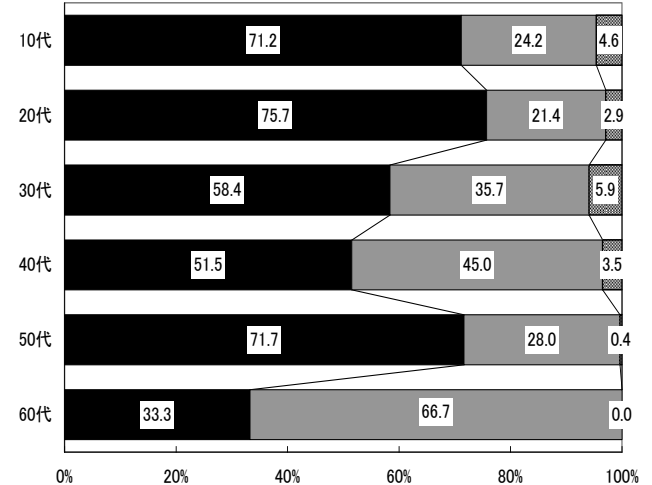
■ 障がい種別



■ 性別

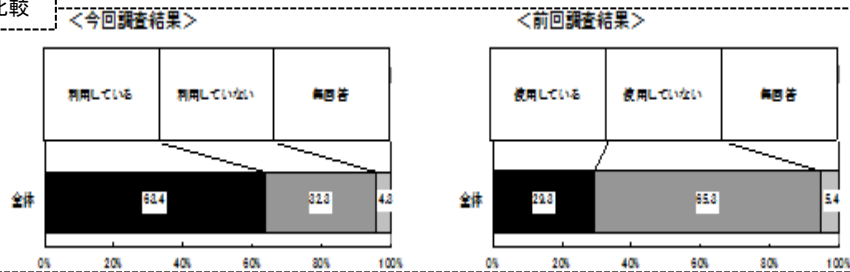


■ 年代別



(参考) 前回調査との比較

■ 全体

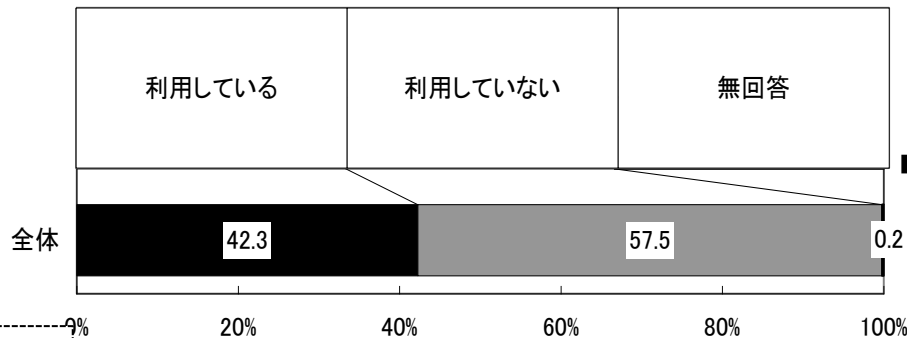


2. 携帯電話・PHSによるインターネット利用率

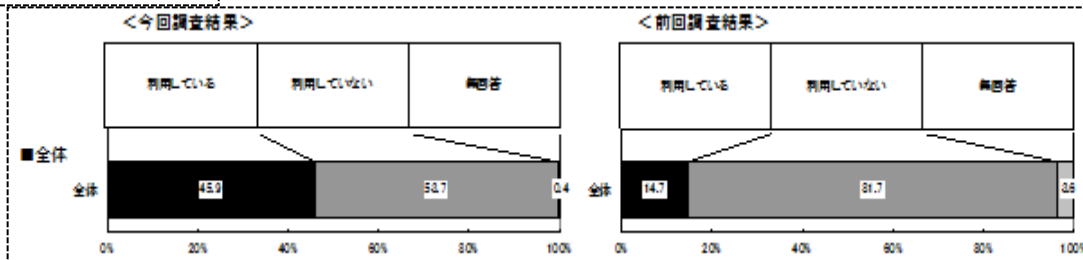
「利用していない」57.5%。ただし、障がい種別によって回答が分かれた。

- 本調査の全体では、「利用していない」の57.5%の方が高くなった。
- 障がい種別にみると視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由では「利用している」がそれぞれ73.2%、86.0%、52.2%となった。知的障がいでは「利用していない」が61.7%となった。
- 男女とも「利用していない」が高くなった。女性55.2%、男性59.6%となり、両者の差は多くなかった。
- 年代によって利用状況は分かれた。10代、20代では「利用している」、30代、40代、50代、60代では「利用していない」がそれぞれ高くなった。
- 前回調査との比較では、「利用している」が31.2ポイント増となった。

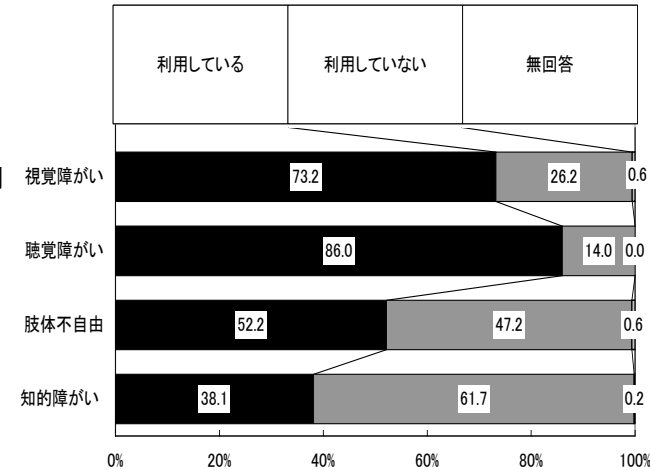
■ 全体



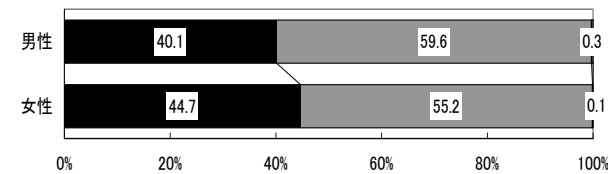
(参考) 前回調査との比較



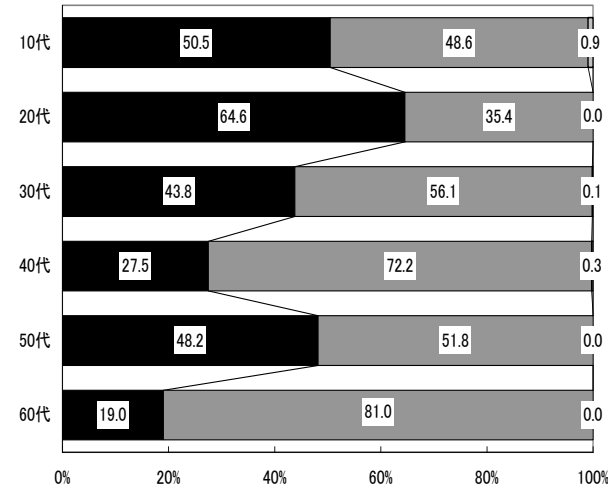
■ 障がい種別



■ 性別



■ 年代別

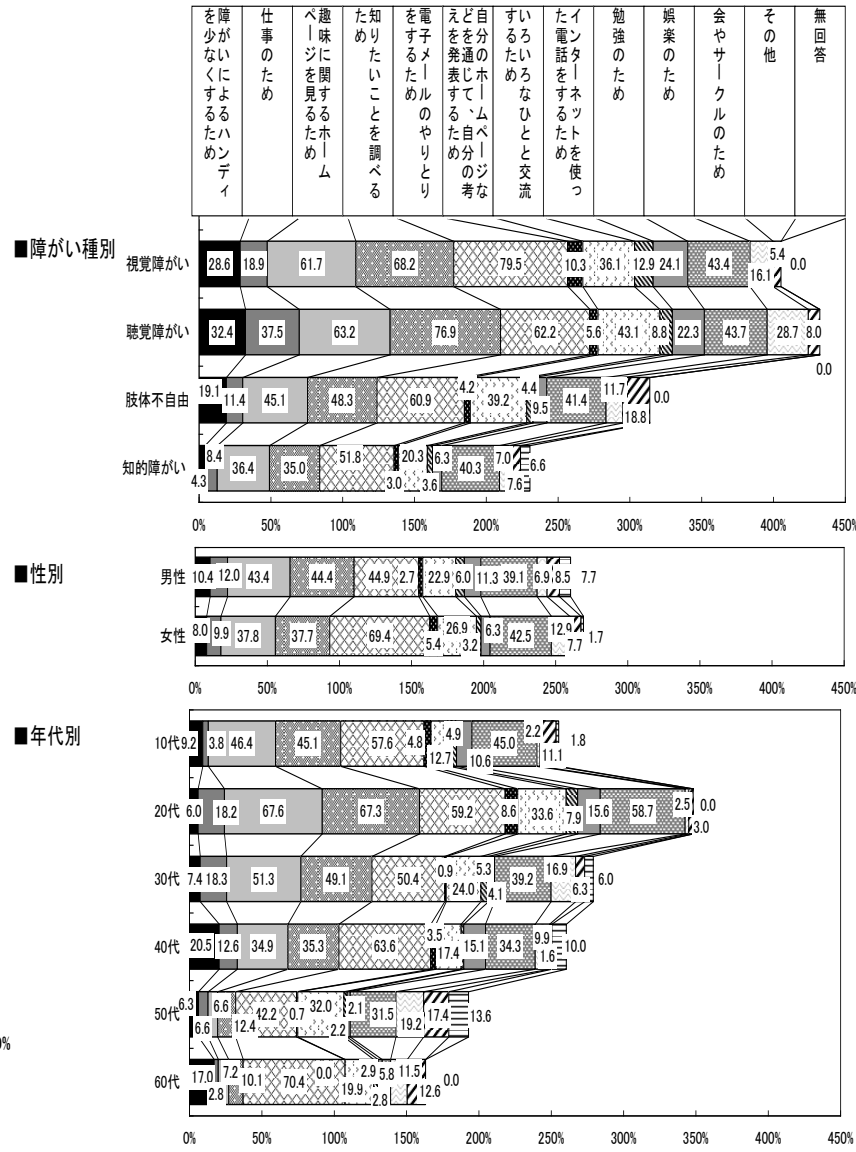
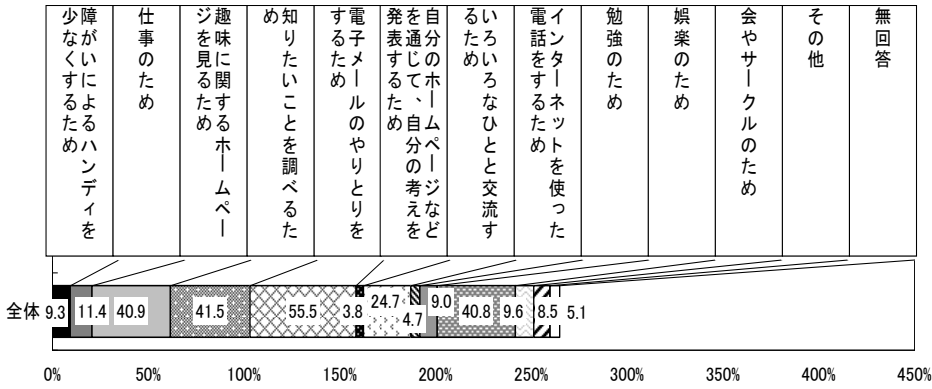


3. 携帯電話・PHSによるインターネット利用目的

「電子メールのやりとりをするため」が55.5 %と半数を超える

- 本調査の全体では「電子メールのやりとりをするため」の55.5%が最も高い。次いで、「知りたいことを調べるため」が41.5%、趣味に関するホームページを見るため」が40.9%、「娯楽のため」が40.8%となった。
- 障がい種別にみると、すべての種別において電子メールのやりとりをするため」が高く、半数を超えた。特に、視覚障がい者の79.5%が回答し、電子メールが重要なコミュニケーション手段のひとつになっていることがわかる。
- 男女別に見ても、「電子メールのやりとりをするため」が高い。女性69.4%、男性44.9%となった。女性が24.4ポイント高くなった。
- 年代別に最も高くなった回答をみる。10代、40代、50代、60代では「電子メールのやりとりをするため」が最も高くなった。20代、30代では「趣味に関するホームページを見るため」が最も高くなった。

■ 全体

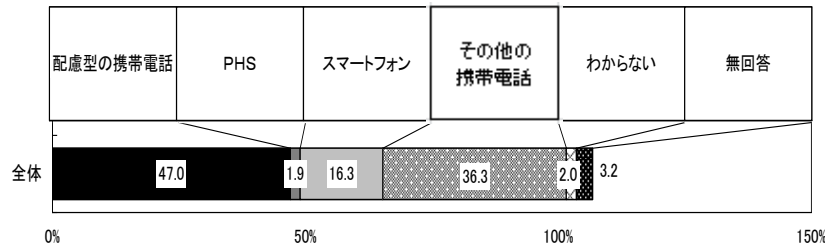


4. 携帯電話・PHSによるインターネット利用端末

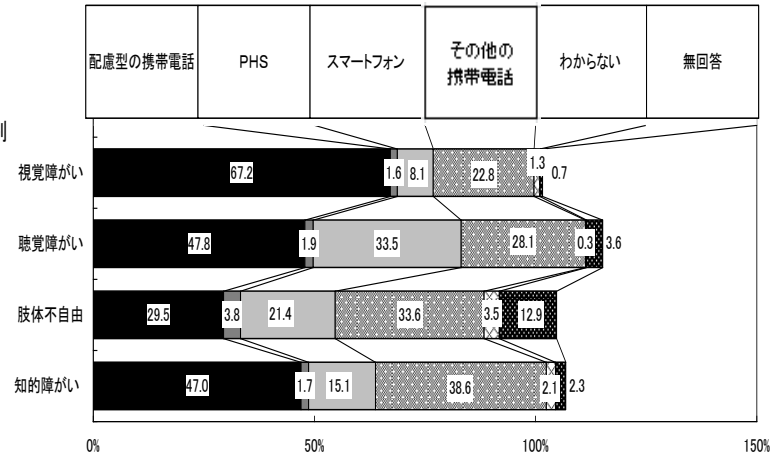
「配慮型の携帯電話」が47.0%

- 本調査の全体では「配慮型の携帯電話」が47.0%、「その他の携帯電話」36.3%、「スマートフォン」16.3%と続く。
- 障がい種別に見ると、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がいでは「配慮型の携帯電話」がそれぞれ67.2%、47.8%、47.0%となった。一方、肢体不自由では「その他の携帯電話」が33.6%となった。
- 男女とも「配慮型の携帯電話」が高くなった。男性48.3%、女性46.5%となり、両者の差はほとんどない。
- 年代別に見ると20代、30代、50代、60代では「配慮型の携帯電話」が高くなった。10代、40代では「その他の携帯電話」が高くなった。

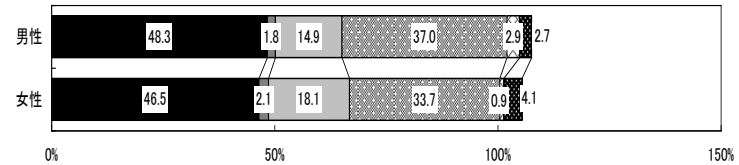
■ 全体



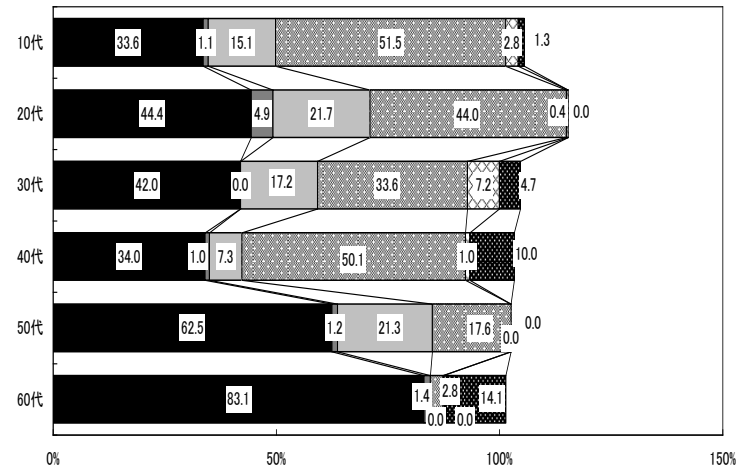
■ 障がい種別



■ 性別



■ 年代別

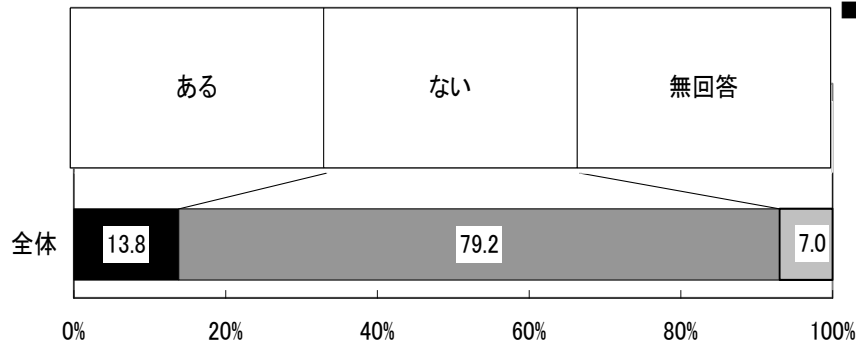


■ インターネットサービスの利用状況  
 1. ネットショッピング・ネットオークションの利用経験

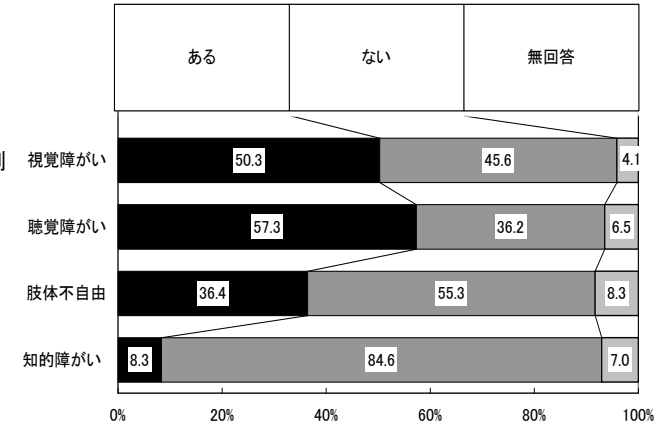
利用経験が「ある」者は13.8%

- 本調査の全体では「ある」13.8%、「ない」79.2%となった。
- 障がい種別に「ある」との回答をみると、種別によって差が生じた。視覚障がい50.3%、聴覚障がい57.3%、肢体不自由36.4%、知的障がい8.3%となった。
- 男女別に「ある」を見ると、男性では14.6%、女性では12.5%となった。
- 年代別に「ある」を見ると、20代以降、年代が上がるにつれて回答が下がる傾向が現れた。なお、10代は19.0%であった。

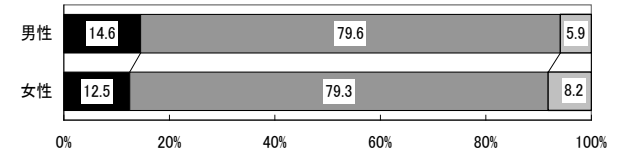
■ 全体



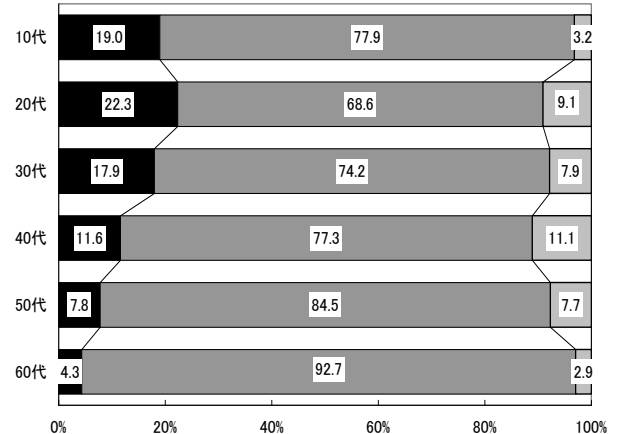
■ 障がい種別



■ 性別



■ 年代別

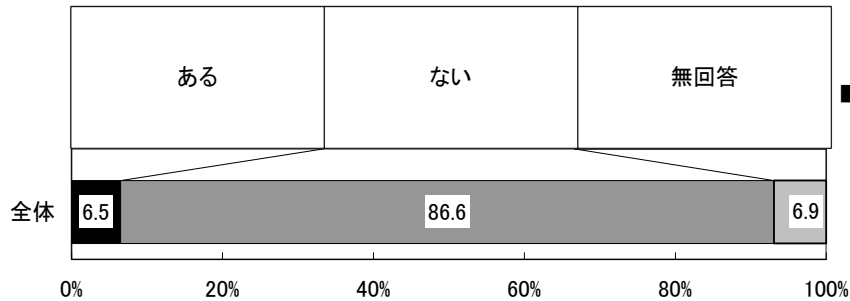


2. 電子書籍の利用経験

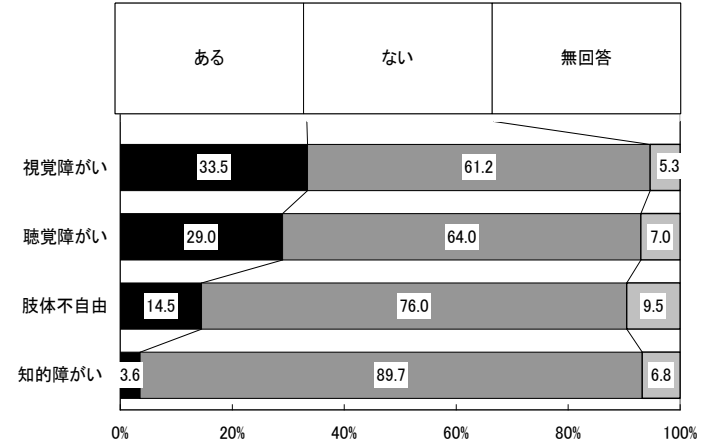
利用経験が「ある」者は6.5%

- 本調査の全体では「ある」6.5%、「ない」86.6%となった。
- 障がい種別に「ある」の回答をみると、種別によって差が生じた。視覚障がい33.5%、聴覚障がい29.0%、肢体不自由14.5%、知的障がい3.6%となった。
- 男女別に「ある」を見ると、男性では6.7%、女性では5.9%となった。
- 年代別に「ある」を見ると、年代が上がるにつれて回答が下がる傾向が現れた。最も高いのは10代の12.8%、逆に最も低くなったのは60代の3.0%であった。

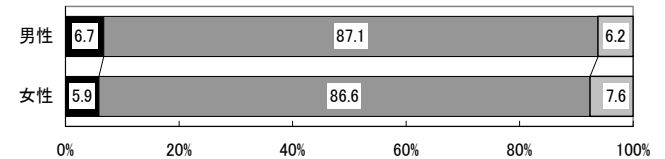
■ 全体



■ 障がい種別



■ 性別



■ 年代別

